

TOPICS

マクニカグループの技術・開発ソリューションを結集した新技術ブランドで、グローバル総合ソリューション提案を強化

産業や生活のインフラを支える通信機器や放送機器、モノづくりを支える工作機や測定器などの産業機器、また、私たちの身の周りにある携帯電話、デジタル・スチル・カメラなどの電子機器は、それらに接続するDVDドライブやプリンタなどの周辺装置を含め、機能の高度化・複雑化がますます進んでいます。その一方で、製品のライフサイクルは一層短くなってきています。メーカーは、現状の品質を維持あるいは向上させながら、より短い時間で新製品を世に出さなければなりません。さらに、市場のグローバル化・ボーダレス化に伴い、外国メーカーとの競争が激化しており、開発にかけられる人員やコストの削減が大きな課題となっています。

こうしたなか、電子機器や周辺装置を構成する半導体、基板回路、ソフトウェアなどをワンストップで提供するシステムレベルの技術・開発ソリューションへの要求が高まっています。マクニカグループでは、従来の営業組織・技術組織とは別の組織を設け、メーカーのシステム開発者の視点に立ったデザイン（設計）サービスを提供することで、半導体を提供する企業の重要な使命として、お客さまのニーズに応えてきました。

お客さまが製品を開発する際にリアルな環境で評価できるプラットフォーム（基盤となるハードウェアやソフトウェア）の開発、今後注目されるアプリケーシ

ョンに特化したIP（Intellectual Property：知的財産）の開発やそのIPを組み込んだ評価ボード（基板回路）の開発など、日本国内で長年培ってきた実績に加え、グローバル市場において日系企業や現地ローカル企業に向けて幅広く提供してきたグループ各社の技術・開発ソリューションを結集し、新たなオリジナル技術ブランドとして体系化したのが「Mpression（エムプレッション）*」です。これまで提供してきたキー・デバイス単体の設計サポートだけでなく、経験豊富な社内外の技術者のノウハウを活かし、より高度で、すぐに使えるグローバルレベルの総合システムソリューションとして、提案力のさらなる強化を図っていきます。

今後は、同様のソリューションを中国、アジア、欧米などのグループ会社で展開するとともに、世界各国で開発したソリューションを日本国内でも提案、サポートしていく予定です。

*Mpressionとは

mPRESSION
Solutions by Macnica Group

株式会社マクニカの統合的ソリューション提案の技術ブランドです。詳しくは、Webサイト（URL：<http://www.m-pression.com/>）をご覧ください。

技術商社の、その先へ。

株式会社マクニカ

〒222-8561 横浜市港北区新横浜一丁目6番地3 TEL.045-470-9851 <http://www.macnica.co.jp/>

株主・投資家の皆さまへ

MACNICATION

第43期第2四半期 マクニカ株主通信

平成25年4月1日から平成25年9月30日まで

VOL. 18

第2四半期連結決算の主なポイント P.1

売上高、経常利益、四半期純利益
ともに半期において過去最高

ここにもマクニカ P.2

見えないところで社会を支える
マクニカの取扱商品



MACNICA

株主の皆さまへ



株主の皆さまにおかれましては、日頃よりご支援とご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間の日本経済は、円安や海外経済の持ち直しを背景に輸出が堅調に推移し、公共投資の増加などにより生産活動も回復傾向となりました。また、円安による収益拡大期待や景気回復に伴い企業の投資マインドが持ち直し、設備投資も改善基調となりました。

当社グループの属するエレクトロニクス産業は、スマートフォンが引き続き拡大しました。一方で、コンピュータ市場は、企業向けPCの買い替え需要が顕在化したものの、タブレットPCを始めとするモバイル端末の台頭により、従来型PCは依然厳しい状況が続きました。民生機器市場は、コンパクト・デジタル・スチル・カメラや薄型テレビが需要減少による生産調整の影響を受け、低調に推移しました。車載市場は、景気回復に伴い北米を中心に堅調に推移しました。産業機器市場は、輸出環境の改善、生産活動の持ち直しなどを受け、回復傾向となりました。

当社グループの集積回路及び電子デバイスその他事業は、スマートフォンの需要拡大により、同端末向けASSPが引き続き好調に推移しました。また、それに伴うLTE基地局や通信設備の増強、北米における伝送装置の需要回復などから、通信インフラ市場向けPLDやASSPは好調に推移しました。コンピュータ市場は、液晶パネル向けなどの既存ビジネスの終息、PC需要の減少などにより、低調に推移しました。民生機器市場は、デジタル・スチル・カメラや薄型テレビが一部生産調整による影響を受けたものの、商権の拡大により全体とし

て堅調に推移しました。車載市場は、良好な需要環境に加え、新規ビジネスの立ち上がりなどによりアナログICなどが順調に拡大しました。産業機器市場は、PLD、アナログICなどが総じて好調に推移しました。

ネットワーク事業は、スマートフォンの拡大による通信設備向け通信機器の需要が一巡したものの、新規モデルの立ち上がりや特需を背景に持ち直し傾向となりました。また、官公庁や情報通信関連企業向けのネットワーク機器やセキュリティ関連機器が伸長しました。標的型攻撃対策を始めとしたセキュリティ関連機器や企業向けセキュリティソフトウェアなども好調に推移しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間は、売上高、経常利益、四半期純利益ともに半期において過去最高となりました。

下半期は、景気が回復基調にあるものの、半導体市場は不透明な状況にあります。そうしたなか、当社グループは、産業機器市場や車載市場など成長性の高い分野に注力するとともに、グローバル市場への展開を図り、業績の拡大に努めてまいります。

代表取締役社長

中島 潔

業績の達成状況や事業環境等を総合的に勘案し、増配を予定

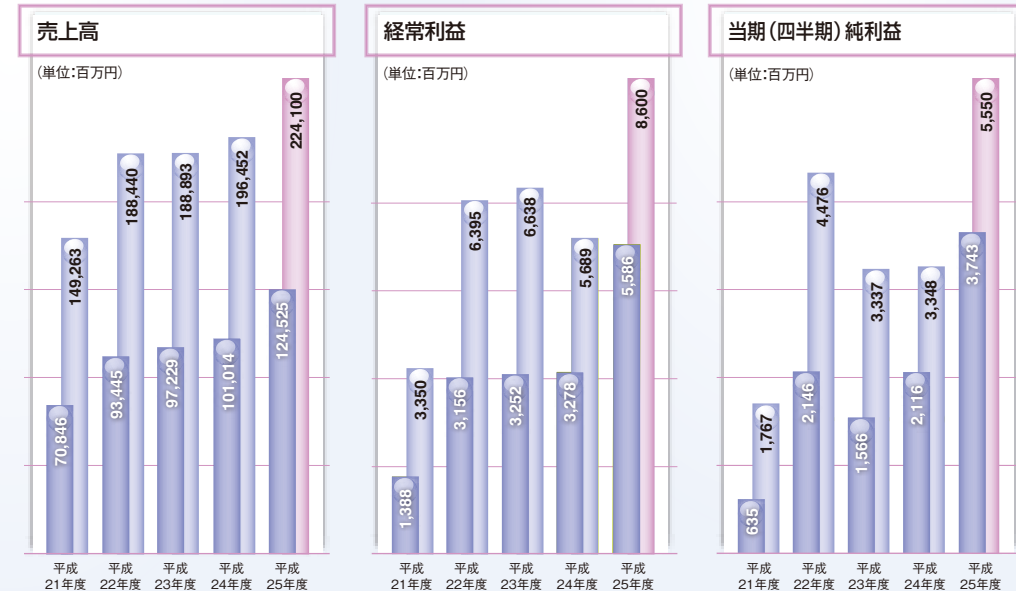
当社グループは、株主尊重・株主重視を経営の重要事項と位置づけ、利益還元におきましては、将来の事業展開と経営体質を強化するために必要な内部留保を勘案しつつ、業績に応じて安定的かつ継続的に実施することを基本方針としております。以上の方針に基づき、業績

の達成状況や事業環境等を総合的に勘案した結果、当期の1株当たり配当予想を、第2四半期末30円、期末30円と、前年実績から年間で20円増配の60円を予定しております。株主の皆さまには、今後とも倍旧のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



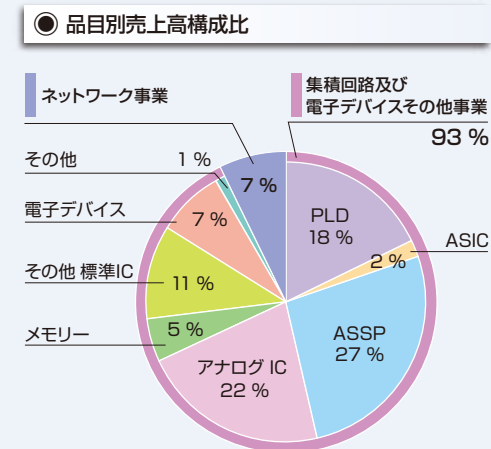
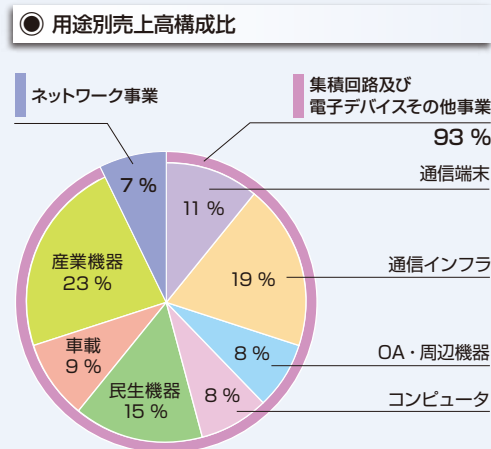
第2四半期連結決算の主なポイント

売上高は124,525百万円(前年同期比23.3%増)と、期初予想を上回る増収となりました。営業利益は4,162百万円(同29.3%増)、また為替差益1,475百万円を計上したことから、経常利益は5,586百万円(同70.4%増)、四半期純利益は3,743百万円(同76.9%増)となりました。



セグメント別売上高

- 集積回路及び電子デバイスその他事業.....115,822百万円
- ネットワーク事業.....8,708百万円





ここにも マクニカ

見えないところで社会を支えるマクニカの取扱商品

情報、通信から交通、医療、さらにゲームや家電製品といった身近な分野にいたるまで、あらゆるところにエレクトロニクスや情報通信の技術が利用され、私たちの生活は飛躍的に進化してきました。

これら技術の進歩は、今後も社会を変え、生活を豊かにしていくものと考えられています。マクニカは、エレクトロニクス・情報通信分野に、半導体、ネットワーク関連機器、ソフトウェアなどを提供し、企業活動を通じて、豊かな社会と生活の形成に貢献していくことを事業意義としています。今回は、見えないところで社会を支えている、マクニカの取扱商品が活躍している分野を紹介します。

病院

CTスキャンやMRIなどの医療機器、血液検査などの分析装置のほか、血圧計やAEDなどにも半導体が使われています。病院内のネットワーク、データ管理システムなどでは、ネットワーク関連商品が活躍しています。

放送局

プロフェッショナル仕様のカメラや録画装置を始め、映像の編集や調整などを行うシステムにも半導体が使われています。また、テレビ放送のデジタル化や高画質化でも半導体が活躍しています。

オフィス(ビル)

PCやプリンタ、デジタル複合機、また、ビルを管理するシステムや監視カメラなどのセキュリティシステムにも半導体が使われています。企業内ネットワークやインターネット関連の機器、ソフトウェア、セキュリティシステムなどでは、ネットワーク関連商品が活躍しています。

携帯電話基地局

通話・通信を中継する基地局や通信設備向けの各種装置などに、半導体やネットワーク関連商品が使われています。

データセンター

サーバやストレージ、データ通信装置などに半導体が使われています。データセンター内のネットワークコントロールやセキュリティ向けなどには、ネットワーク関連商品を提供しています。

家庭

テレビやゲーム機などの情報家電、エアコンや冷蔵庫などの白物家電、家庭用のプリンタやPCなど、ほとんどの家電製品に半導体が使われています。

クルマ

カーナビゲーションシステムやAV機器のほか、クルマ本来の機能である「走る」「曲がる」「止まる」を制御するためにも半導体が使われています。また、衝突防止ブレーキアシストなどの先進運転システムでも半導体が活躍しています。

鉄道

列車の速度を制御または停止するための装置や、路線内の信号や分岐の連動装置を1か所ですべて遠隔操作する装置などにも半導体が使われています。運行ダイヤや列車遅延情報などを管理する運行システムでも、半導体が活躍しています。

工場

モノづくりに使われるさまざまな機器類のほか、半導体を製造するための装置にも半導体が使われています。また、安全性、作業効率向上を担うファクトリーオートメーション、製造ラインの集中管理を行うコンピュータシステムなどでも、半導体が幅広く活躍しています。

モバイル

スマートフォン、デジタルスチルカメラ、デジタルビデオ、デジタルオーディオプレーヤーといった電子機器に、幅広く半導体が使われています。



マクニカは、半導体・エレクトロニクス関連商品の専門商社です。電機・電子機器メーカーを始めとするさまざまなお客さまに向け、多くの商品を提供しています。これは、主に「半導体」と「ネットワーク関連商品」に分かれており、前ページで紹介したように、それぞれ産業や社会インフラを支え、私たちの生活に深く浸透しています。

先端商品として社会を支える半導体

私たちの身の周りには電機・電子機器は、高機能化、小型化されることで、より便利に進化してきました。マクニカは、それら製品の質と機能を支える先端的で高い機能を有した半導体商品世界各国から数多く仕入れています。

今後は、スマートグリッドを始めとした省電力システムや環境エネルギー、進化を続ける医療装置やヘルスケア市場、エレクトロニクス化が進む次世代自動車など、これからの社会にとってより必要とされる分野で半導体の活

躍が期待されています。マクニカは、こうした分野に向け、いち早く先進的な取り組みを提案しています。



インターネット社会を支えるネットワーク関連商品

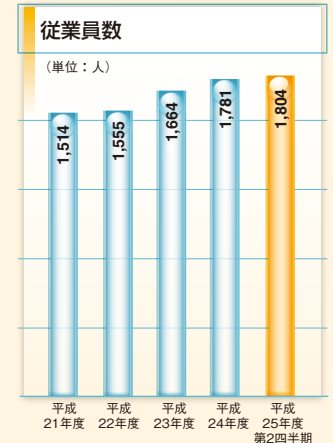
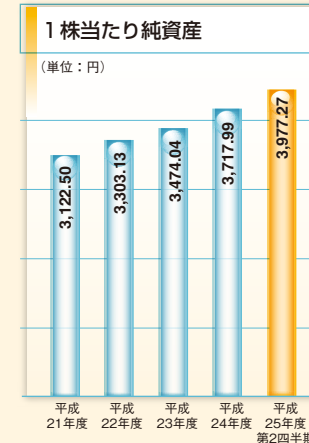
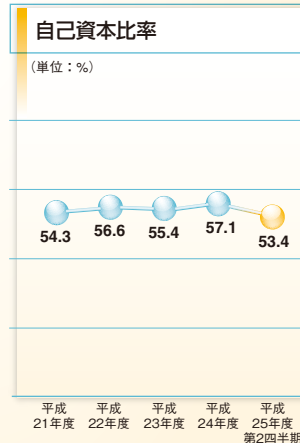
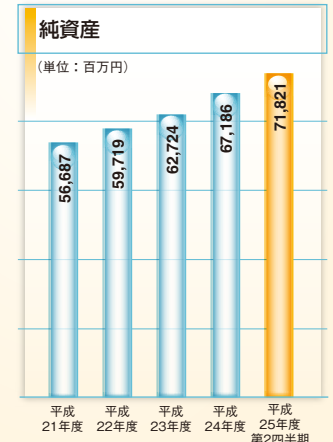
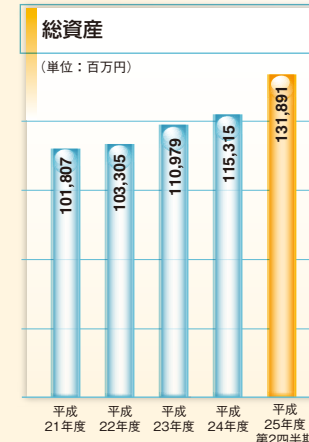
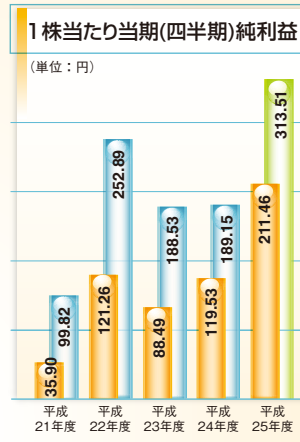
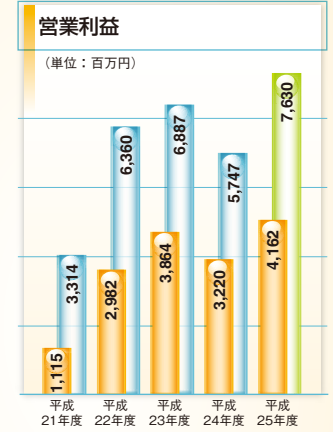
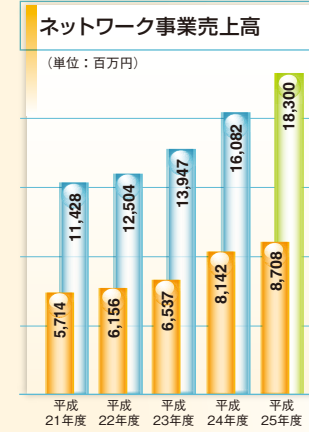
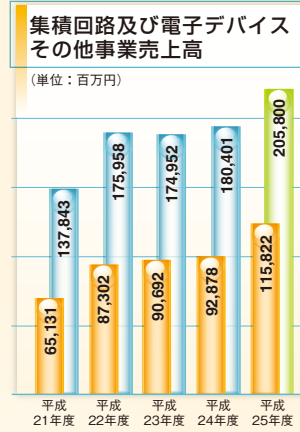
インターネットやモバイル環境などの情報通信の急速な発展は、私たちの社会に利便性をもたらし、生活を豊かにするものとなっています。マクニカは、そうした発展の一助を担う先端的なネットワーク、コンピュータ、情報通信システム関連の機器・装置・ソフトウェアなどを提供しています。

最近では、コンピュータやネットワークに不正に侵入し、データの詐取や破壊、改ざんなどを行う「サイバー攻撃」の脅威が高まっており、特に、特定の企業や団体をターゲットに攻撃を仕掛ける「標的型攻撃」が増え、大きな社会問題となっています。マクニカは、この標的型攻撃に対応する世界の最新ソリューションをお客さまに提供し、世界に通

じる情報セキュリティの普及に取り組むなど、時代の一歩先を行くネットワーク技術の創出に取り組んでいます。



このように、エレクトロニクスや情報通信は今後も成長が期待される分野であり、市場規模は着実に広がっていくものと思われます。また、市場は境界を越えて世界へと広がっています。そうしたなか、マクニカは世界市場を活動領域とし、世界での発展と世界の人々への貢献を今後の目標に、新たなチャレンジによって、さらなる成長を目指していきます。



四半期連結財務諸表

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てています。この財務諸表は、主要な項目を表示しています。

四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

区 分	第43期 第2四半期	第42期
	平成25年9月30日現在	平成25年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	117,557	101,083
現金及び預金	14,447	17,088
受取手形及び売掛金	47,344	37,904
商品	46,033	37,686
その他	9,844	8,521
貸倒引当金	△ 112	△ 118
固定資産	14,333	14,232
有形固定資産	7,535	7,497
建物及び構築物	2,558	2,536
土地	3,558	3,557
その他	1,418	1,403
無形固定資産	2,029	2,175
投資その他の資産	4,769	4,559
投資有価証券等	4,854	4,636
貸倒引当金	△ 85	△ 77
資産合計	131,891	115,315

(単位:百万円)

区 分	第43期 第2四半期	第42期
	平成25年9月30日現在	平成25年3月31日現在
【負債の部】		
流動負債	51,296	37,565
支払手形及び買掛金	28,105	21,185
短期借入金	7,500	4,500
未払法人税等	1,800	1,129
賞与引当金	1,728	1,181
その他	12,162	9,568
固定負債	8,773	10,563
長期借入金	4,475	6,418
退職給付引当金	3,148	3,022
その他	1,149	1,123
負債合計	60,070	48,129

【純資産の部】		
株主資本	68,672	65,346
資本金	11,194	11,194
資本剰余金	19,476	19,476
利益剰余金	39,092	35,765
自己株式	△ 1,090	△ 1,090
その他の包括利益累計額	1,736	473
その他有価証券評価差額金	251	192
繰延ヘッジ損益	△ 202	△ 622
為替換算調整勘定	1,686	903
新株予約権	92	92
少数株主持分	1,319	1,274
純資産合計	71,821	67,186
負債純資産合計	131,891	115,315

流動資産
受取手形及び売掛金、商品の増加により、前期末に比べ16,474百万円の増加となりました。

流動負債
主に支払手形及び買掛金、短期借入金などの増加により、前期末に比べ13,731百万円の増加となりました。

固定負債
長期借入金の減少により、前期末に比べ1,790百万円の減少となりました。

純資産
利益剰余金、為替換算調整勘定の増加により、前期末に比べ4,634百万円の増加となりました。

四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

区 分	第43期第2四半期 累計期間	第42期第2四半期 累計期間
	平成25年4月1日～ 平成25年9月30日	平成24年4月1日～ 平成24年9月30日
売上高	124,525	101,014
売上原価	107,922	86,963
売上総利益	16,602	14,050
販売費及び一般管理費	12,439	10,830
営業利益	4,162	3,220
営業外収益	1,593	219
営業外費用	169	160
経常利益	5,586	3,278
特別利益	140	737
特別損失	5	368
税金等調整前四半期純利益	5,722	3,647
法人税、住民税及び事業税	1,955	1,495
少数株主損益調整前四半期純利益	3,766	2,151
少数株主利益	22	35
四半期純利益	3,743	2,116

売上高/営業利益
スマートフォンの拡大等により、売上高は前年同期比23.3%増、営業利益は同29.3%増と伸長しました。

経常利益
売上高、営業利益の増加と為替差益の計上により、前年同期比70.4%の大幅な増加となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー
税金等調整前四半期純利益5,722百万円および仕入債務の増加等の増加要因があったものの、売上債権およびたな卸資産の増加等の減少要因があったことにより、減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー
有形固定資産および無形固定資産の取得による支出等により、減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー
長期借入金の返済による支出等の減少要因があったものの、短期借入金の増加等により、増加となりました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

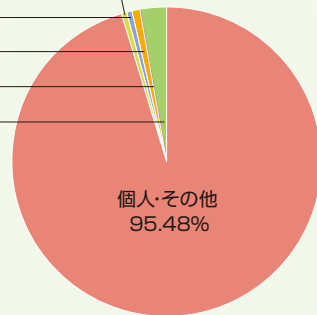
(単位:百万円)

区 分	第43期第2四半期 累計期間	第42期第2四半期 累計期間
	平成25年4月1日～ 平成25年9月30日	平成24年4月1日～ 平成24年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,825	△ 8,005
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 567	△ 570
財務活動によるキャッシュ・フロー	581	△ 1,534
現金及び現金同等物に係る換算差額	168	△ 328
現金及び現金同等物の増減額	△ 2,642	△ 10,438
現金及び現金同等物の期首残高	17,089	24,222
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	1	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,447	13,783

- 会社の発行可能株式総数.....70,000,000 株
- 発行済株式数.....18,110,252 株(自己株式含む)
- 株主数.....5,374 名
- 株主数及び株式数比率

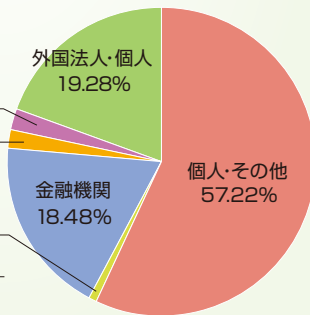
● 株主数比率

- 金融商品取引業者 0.50%
- 金融機関 0.63%
- 会社・その他法人 0.76%
- 自己株式 0.02%
- 外国法人・個人 2.61%

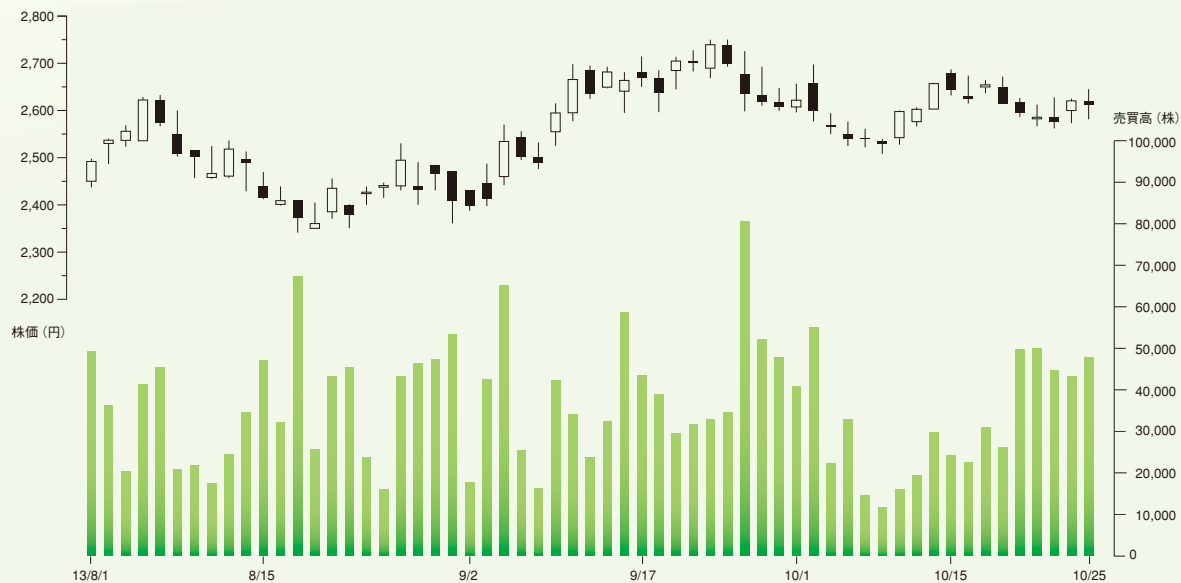


● 株式数比率

- 自己株式 2.25%
- 会社・その他法人 2.05%
- 金融商品取引業者 0.72%
- 政府・地方公共団体 0.00%



● 株価チャート



● 会社概要

- 商号 株式会社マクニカ (MACNICA, Inc.)
- 設立 1972年(昭和47年)10月
- 資本金 111億9,426.8万円 (平成25年9月30日現在)
- 決算期 3月
- 役員
 - 取締役会長 神山 治貴
 - 代表取締役社長 中島 潔
 - 取締役 佐野 繁行
 - 取締役 荒井 文彦
 - 取締役 スー デビッド デイキャン
 - 常勤監査役 伊藤 隆
 - 常勤監査役 宇佐美 豊
 - 監査役 朝日 義明
- 事業内容 半導体・集積回路等の電子部品の輸出入、販売、開発、加工、電子機器並びにこれらの周辺機器及び付属品の開発、輸出入、販売、その他
- 主要取引銀行
 - 三井住友銀行
 - 三菱東京UFJ銀行
 - 第四銀行
 - みずほコーポレート銀行
 - 横浜銀行
- 連結従業員数 1,804名(平成25年9月30日現在)
- 平均年齢 36.6歳(平成25年9月30日現在)
- 連結子会社
 - 株式会社アルティマ
 - マクニカネットワークス株式会社
 - 株式会社エルセナ
 - 株式会社コージエント
 - MACNICA ASIA PACIFIC PTE LTD
 - MACNICA HONG KONG, LIMITED
 - MACNICA SHANGHAI, LIMITED
 - MACNICA TAIWAN, LIMITED
 - MACNICA (THAILAND) CO., LTD.
 - CYTECH TECHNOLOGY LIMITED
 - CYTECH GLOBAL PTE LTD
 - GALAXY FAR EAST CORPORATION
 - 他7社
- 国内拠点
 - 西日本支社
 - 名古屋営業所
 - 宇都宮営業所
 - 松本営業所
 - 福岡オフィス
 - ロジスティクス/プログラミングセンター

● 株主メモ

- 決算日 毎年3月31日
- 定時株主総会 毎年6月
- 利益配当金支払 毎年3月31日
- 株主確定日
- 中間配当金支払 毎年9月30日
- 株主確定日
- 基準日 毎年3月31日 (その他臨時に必要があるときは、あらかじめ公告いたします。)
- 公告掲載方法 電子公告
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 特別口座の口座管理機関
- 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (通話料無料)
東京都江東区東砂7丁目10番11号
- 同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

● ご注意

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

この冊子においては、将来の見通しに関する記述が様々な表現でなされており、その見通しはリスクや不確実性に左右され、実際の結果と大きく異なることも考えられます。読者の皆さまには、これらの将来に関する記述に過度に依存なされないようお願いいたします。